



(御絵伝 照光寺蔵)

御絵伝・御伝鈔について

東西本願寺寺院の報恩講に際して、本堂の余間壇に必ず懸けられる四幅の軸が「御絵伝」と呼ばれているものです。本願寺第三代覚如上人が記述されたもので親鸞聖人のご生涯と遺徳を絵で伝えるものです。絵の特徴の一つに床板や塀を見ると、遠くなるほど広く画かれているのがわかります。逆遠近法という図法です。また、1枚の図中に複数の親鸞聖人が画かれている図もありますが、これは動きを表しています。

また、報恩講に拝読される読物があります。「本願寺の聖人親鸞伝絵の上」で始まるこの読物「詞書」です。この読物を「御伝鈔」と言います。もともと一つの絵巻物だったのが、長い年月が経ち、その絵図と詞書とが別々に分かれて流布するようになり、絵図の方を「御絵伝」、詞書のみを抄出したものを「御伝鈔」と呼ばれるようになりました。本願寺の場合、読み方は御文章に似ていますが、所々、独特の節回しが入っています。

私が特に個人的に心惹かれる一段を紹介いたします。上巻第七段(信心諍論の段)当時、法然上人の門弟であった親鸞聖人(このころ名前を善信と名乗っていらっしやいました。)が「昔、源空聖人(法然上人)の御前に、多くの弟子が集まり、思いもよらぬ諍論がなされたことがある。親鸞聖人が「法然上人の御信心と善信(親鸞聖人)の信心と少しも変わるところなく一つである」と申されたところ、人々はそれをとがめて「何故か」と詰め寄った。

これに対して善信(親鸞聖人)は「智慧や学問が同じと申したならば誤りであるが、往生の信心ということでは、法然上人の信心も他力より賜った信心であり、善信の信心も他力より賜った信心であれば、ひとしくて変わらう筈がない」と仰せられた。その時、大師聖人(法然上人)がお出ましになり、「信心が異なるというのは自力の信にとってのことである。他力の信心は仏より賜る信心であるから、源空の信心も善信房の信心もひとしくただ一つであるの



▲信心諍論の段(下段)



▲掛け軸の箱書き

だ。もし信心が変わるといふのなら、その人々は私が参らせていただく浄土へは参ることはできまい」と仰せられました。そこに集まっていた面々は、「そうであったか」と頷くばかりであった。

現行では上(八段)下(七段)二巻、計十五段からなっています。読み手によって多少は違いますが、上下巻読み上げるのにおおよそ1時間20分ほどかかります。

ここに「御絵伝・御伝鈔」として伝えられてきた一段一段、親鸞聖人のご生涯を伺うと共に、今生きる私たち一人ひとりがお念仏のみ教えに遇えたことに、深く感謝させて頂きたいものです。

長崎恵水(照光寺)

お仏壇の1日クリーニング!

5千円~6万円くらいとリースナブルにクリーニング。きれいにいたします! お仏壇・お仏具はもちろん修理もお受けしております

日置仏壇店

(有)日置佛壇店

三重県員弁郡東員町中上419-1
店舗 ☎ (0594) 76-0333 工場 ☎ (0594) 76-3072
営業時間 AM8:30~PM6:30 定休日 火曜日

佛壇 佛具

旧社名 福井屋続本店

桑名本店 稲沢店 四日市店
桑名本店 桑名市南寺町69 TEL 23-2918

五大

有限会社

小林仏壇店

北勢町東村 336-8・国道 365 号 (通称ミルク道路梅現坂交差点東)
電話 72-6151